

本州・四国・九州の

# カマキリ図鑑



Cover: Nishiyama Hōen, Procession of Insects, a hanging scroll painting.  
Copyright The Trustees of The British Museum.

本州・四国・九州の

# カマキリ図鑑



## はじめに

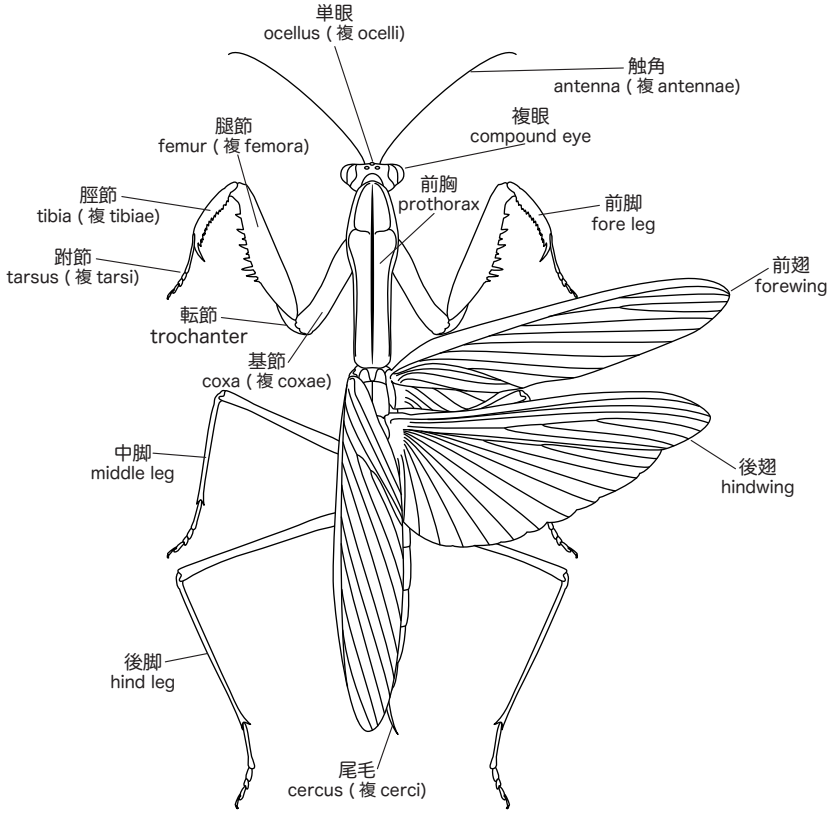
カマキリは有名で人気のある昆虫の一つです。完全な肉食昆虫で、前脚が捕獲肢になっているのが大きな特徴です。他には頭部が前胸に覆われず自由に動く、複眼は大きく単眼は3個、触角は糸状で細長い、大顎は咀嚼型であることも特徴です。

カマキリ目はゴキブリ目との共通祖先から進化したと考えられています。最近のゲノム情報を用いた研究で、約2億年前にゴキブリ目と分岐したことが示されました (Misof *et al.*, 2014)。

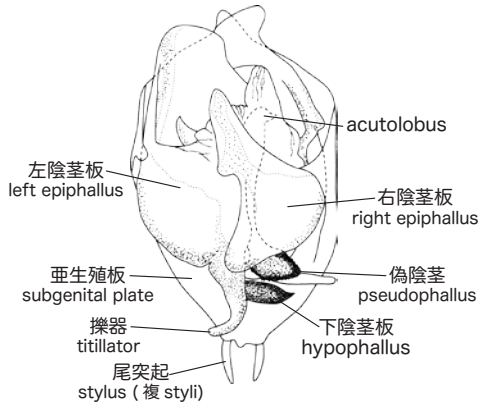
世界の熱帯と亜熱帯を中心に分布し、16科、約2,400種が記載されています (Otte *et al.*, 2017)。日本には外来種と考えられているものも含めて13種分布しています。このうち本州・四国・九州には9種が分布しています。



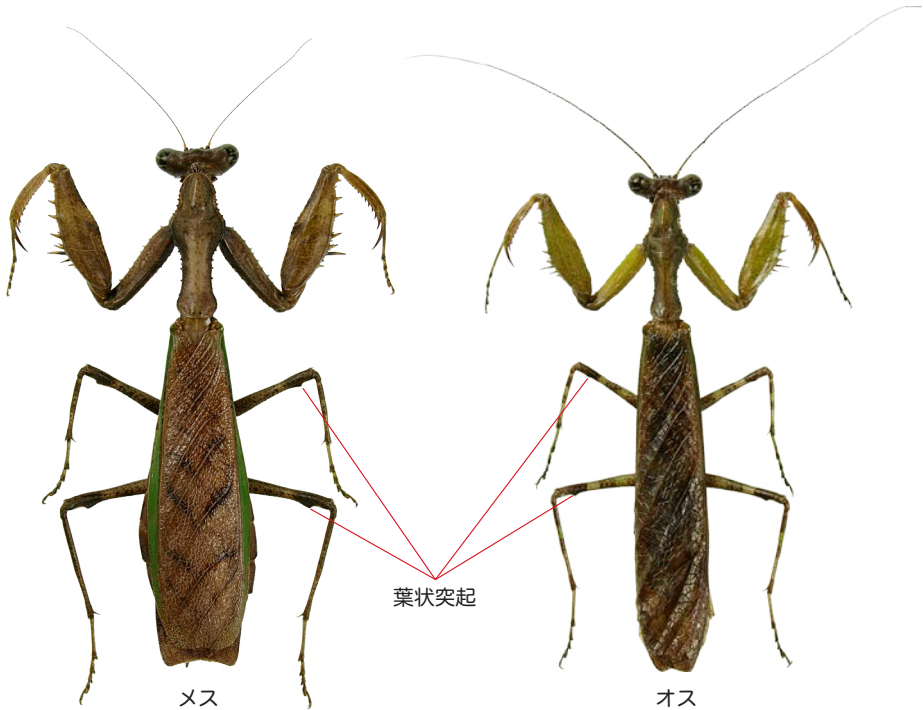
●各部名称



●オオカマキリのオス交尾器各部名称 (背面)



ヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood, 1889

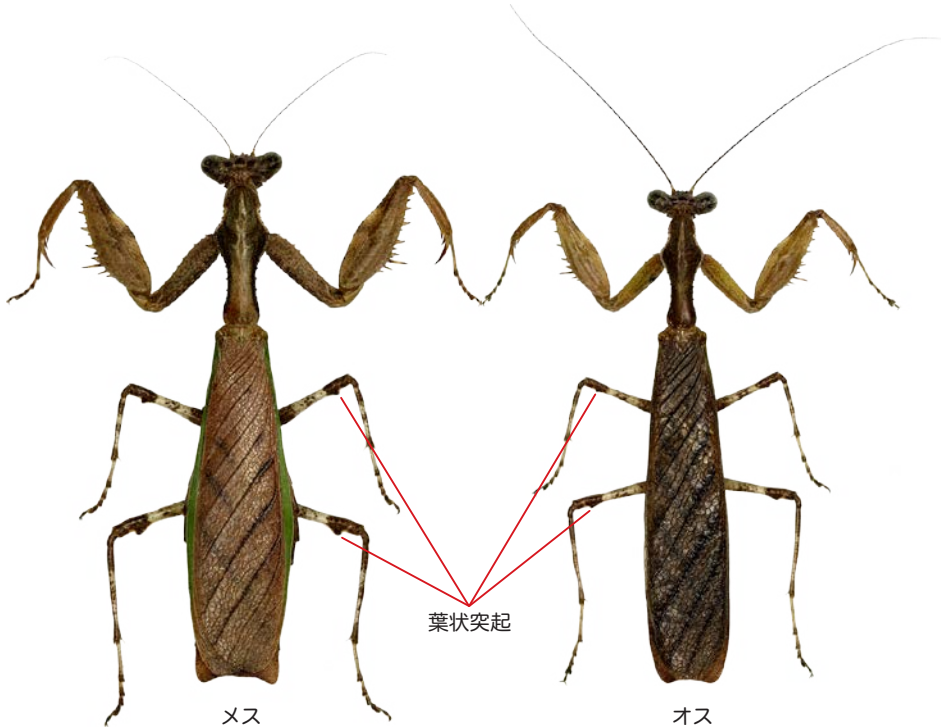


林内および林縁に生息し、樹上性。特に谷筋のような場所で多く見られ、灯火にもよく飛来する。危険を察知するとあちこち跳ねまわり、最終的に擬死することがある。9月～12月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂25-32mm、♀25-31mm。本州、四国、九州；朝鮮半島に分布。





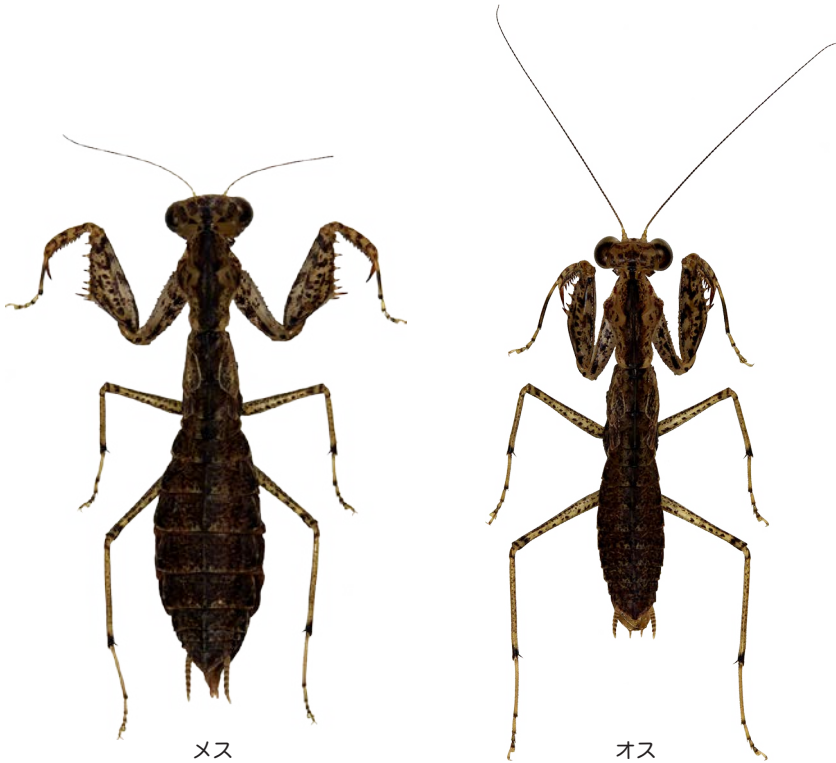
サツマヒメカマキリ *Acromantis satsumensis* Matsumura, 1913



ヒメカマキリ同様、林内および林縁に生息し、樹上性。幼虫で越冬し、冬季に常緑樹をビーティングすると越冬中の個体が落ちてくる。越冬中の幼虫は3齢もしくは4齢。5月～7月に成虫。中脚と後脚の腿節にある葉状突起はヒメカマキリよりも大きい傾向があるが、個体差も大きい。体長♂ 29-34mm、♀ 30-36mm。本州(西南部)、四国、九州、南西諸島に分布。



ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki, 1908)



主に照葉樹林の林床にすむ。落ち葉の上をかサカサと素早く歩く。日本で最も小さいカマキリ。♂♀とも成虫になっても翅は短い。9月～12月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂ 12-15mm、♀ 13-18mm。本州・四国・九州、南西諸島；台湾に分布。





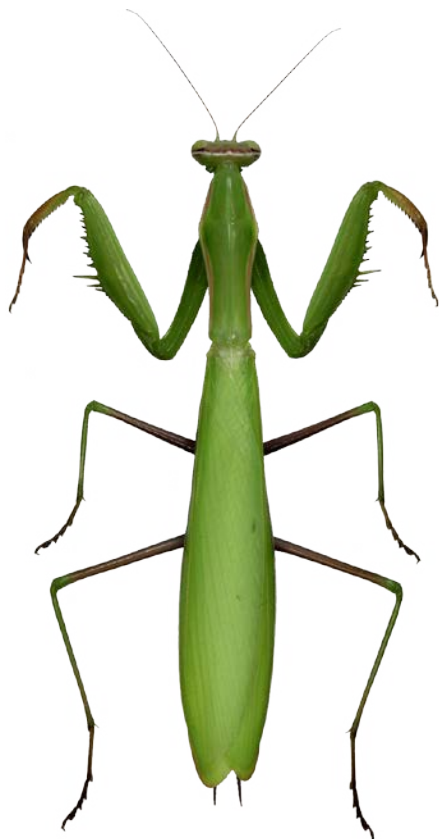


小さくてもいっちょまえ。メス 淡路島 2012年8月

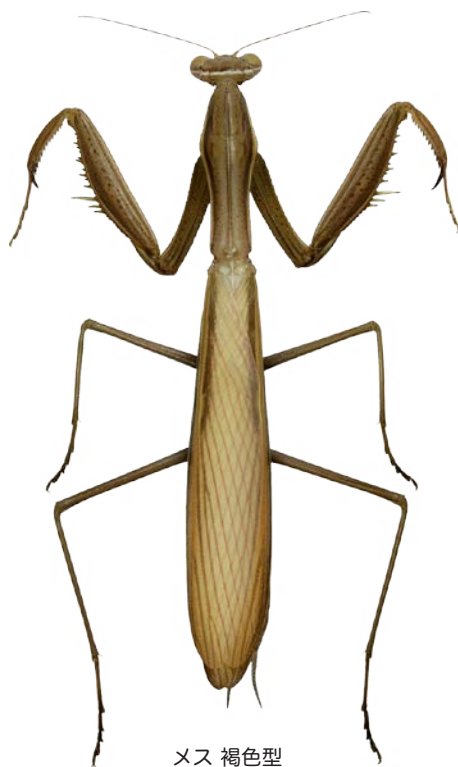


小さくてもカッコイイ。オス 神戸市須磨区 2009年9月

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758)



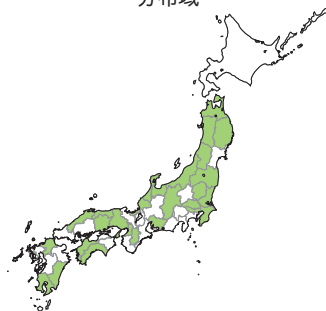
メス 緑色型

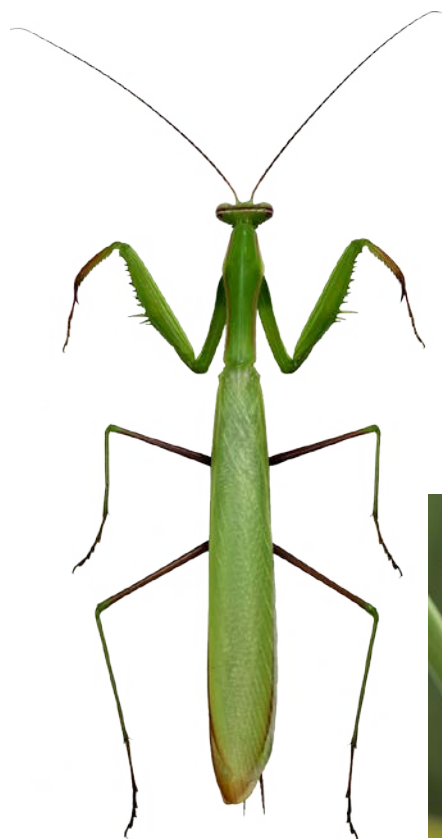


メス 褐色型

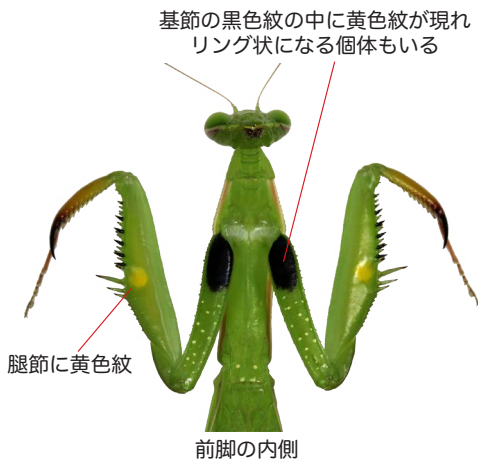
透明感のある美しいカマキリ。河川敷や原野、茅場のような草原にすむが生息地は限られている。地表近くで見つかることが多い。9月～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂ 52-66mm、♀ 59-66mm。本州・四国・九州、南西諸島；台湾、東南アジア、旧北区に広く分布。

分布域





オス 緑色型

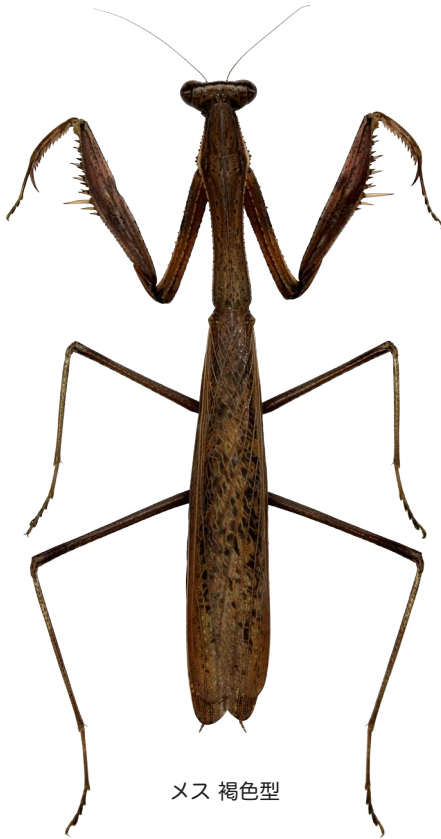


とても美しいカマキリ 兵庫県播磨東部 2014年9月

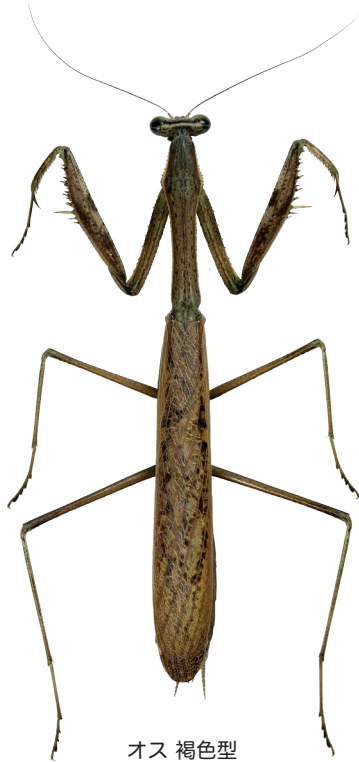


生息地の環境

コカマキリ *Statilia maculata* (Thunberg, 1784)



メス 褐色型



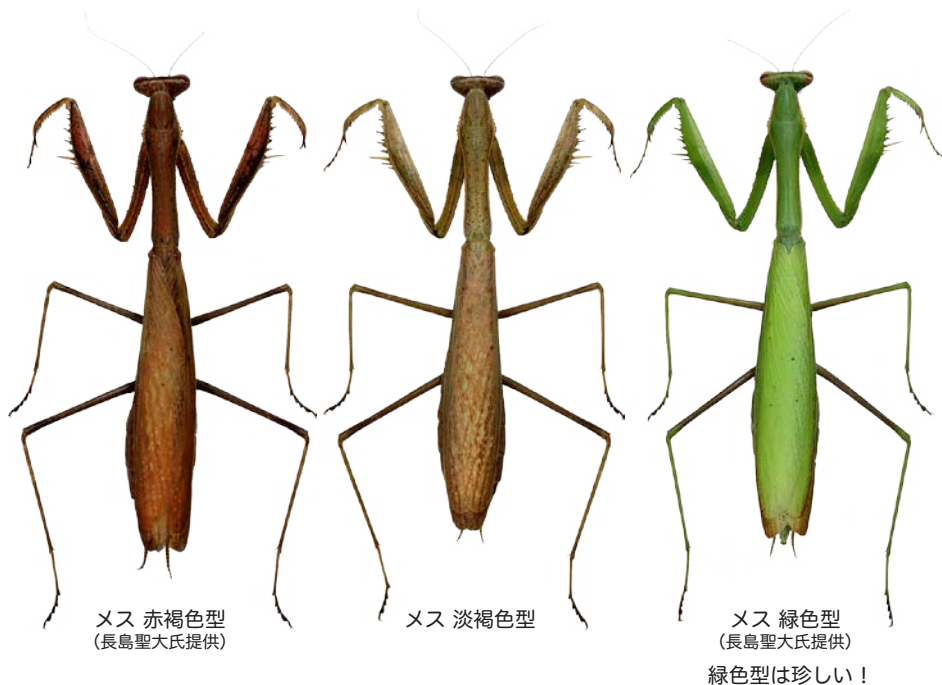
オス 褐色型

林縁や草地、河川敷などの地表近くにすむ。灯火にもよく飛来する。濃褐色の個体が多いが、淡褐色、赤褐色、緑色など体色の変異は多い。緑色型はまれで、見つかるととてもうれしい。9月～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂36-55mm、♀46-63mm。本州・四国・九州；朝鮮半島、中国、台湾に分布。

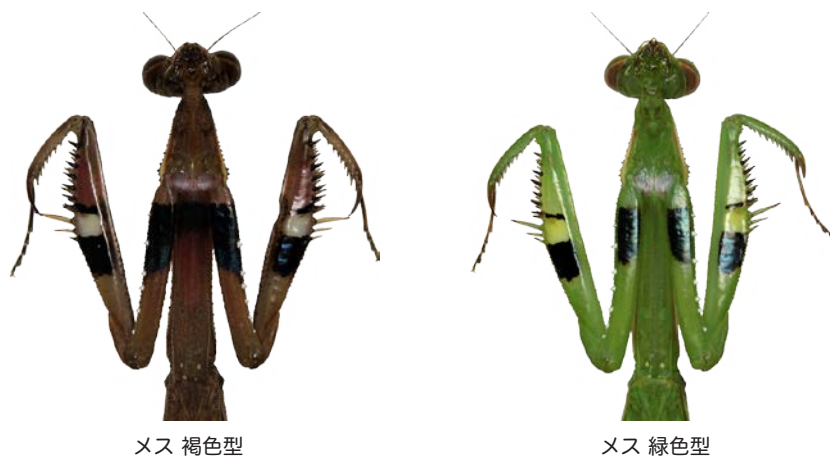
分布域



●体色の変異

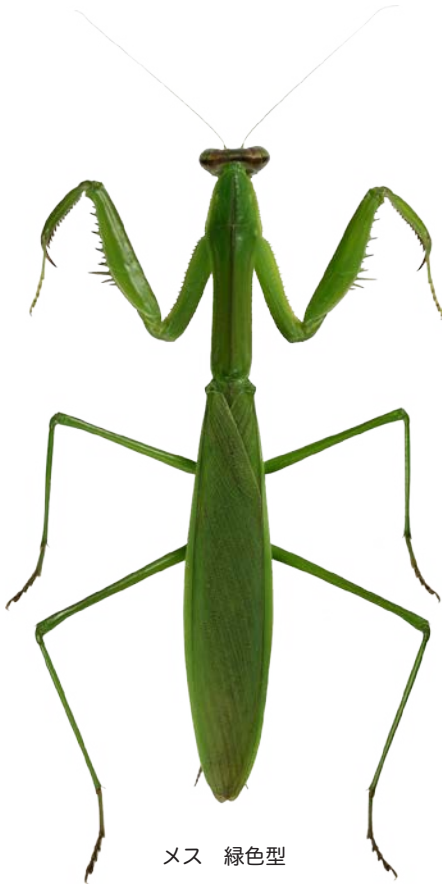


●前脚内側の斑紋

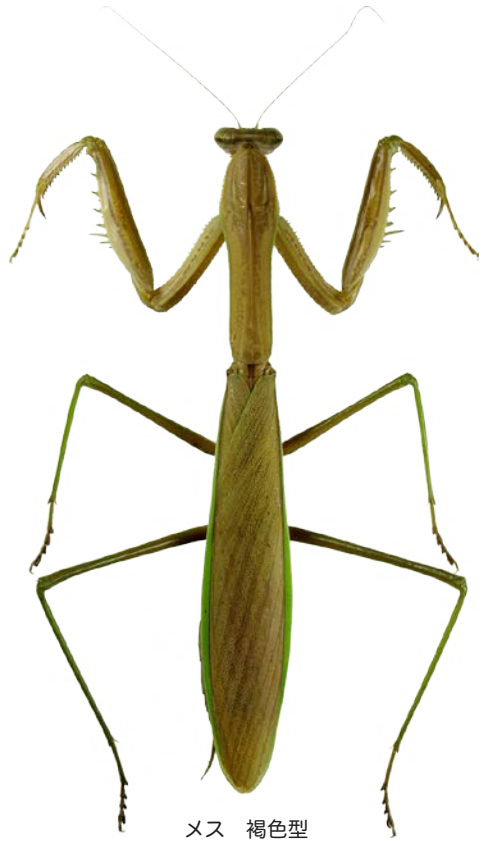




オオカマキリ *Tenodera sinensis* Saussure, 1871



メス 緑色型



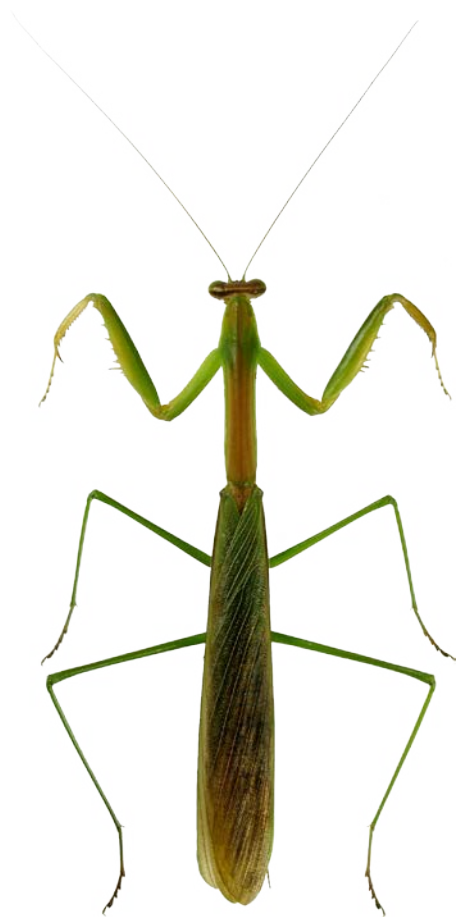
メス 褐色型

基本的に林縁などにすむ。クズの繁茂するマント群落でもよく見られる。もっとも普通に見られるカマキリのひとつ。見つけると勝負を挑む気持ちになり、つい掴んでしまう不思議な魅力を持つ。♂は緑褐色型がほとんどで緑色型はまれ。8月末～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂ 68-90mm、♀ 75-95mm。本州・四国・九州；朝鮮半島、中国、台湾に分布。

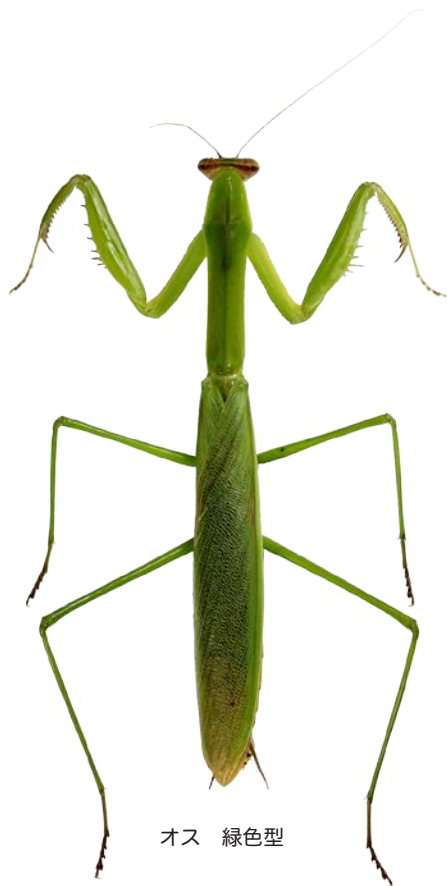
分布域





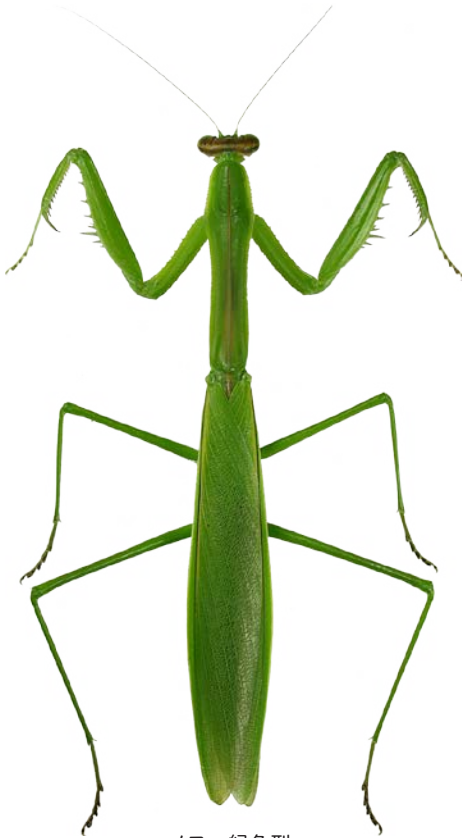


オス 緑褐色型

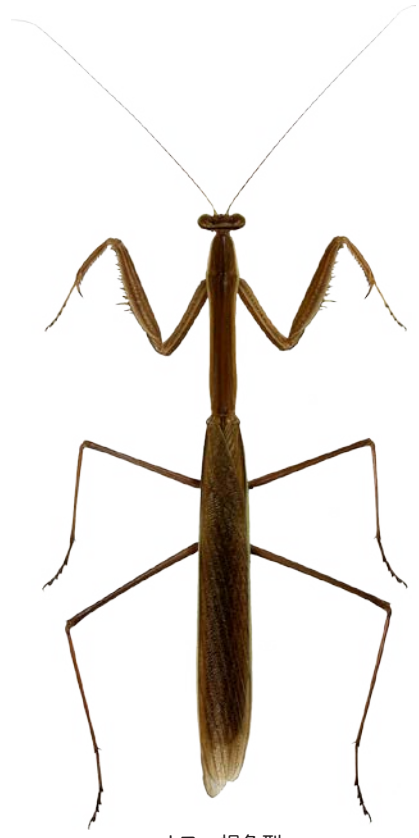


オス 緑色型

カマキリ (チョウセンカマキリ) *Tenodera angustipennis* Saussure, 1869



メス 緑色型



オス 褐色型

草原や河原、畑や田んぼのわきにすむ。ウスバカマキリやオオカマキリと一緒に見つかることも多い。9月～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂65-90mm、♀68-92mm。本州・四国・九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、台湾、東南アジアに分布。

分布域



●オオカマキリとカマキリの見分け方

オオカマキリ



前脚の付け根が薄い黄色

カマキリ



前脚の付け根がオレンジ色

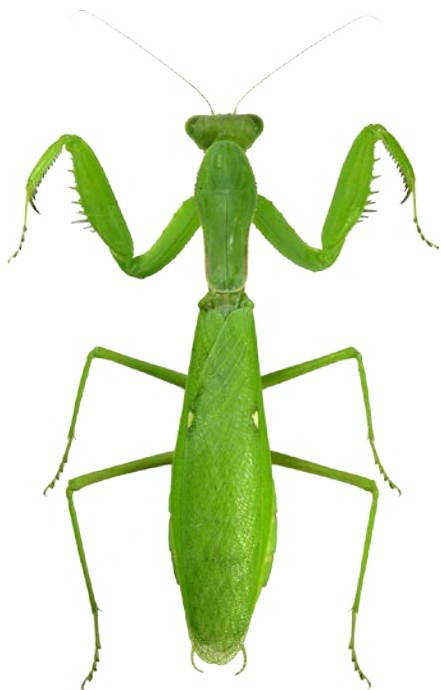


後翅に濃い色がついている

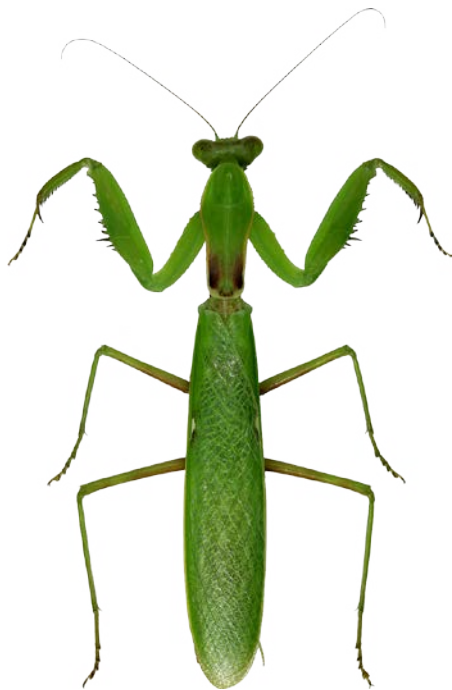


後翅はほとんど無色

ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Audinet-Serville, 1839)



メス 緑色型



オス 緑色型

樹上性で主に林縁にすむ。公園のような樹がまばらに生えている環境でも見つかる。かわいい顔をしているが、手を出すと痛い目に合うことが多い。緑色型と褐色型があり、褐色型は少ない。9月～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂45-65mm、♀52-71mm。本州・四国・九州、南西諸島；朝鮮半島、中国、台湾、東南アジアに分布。

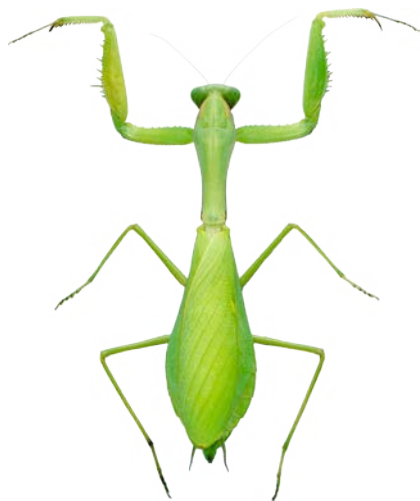
分布域



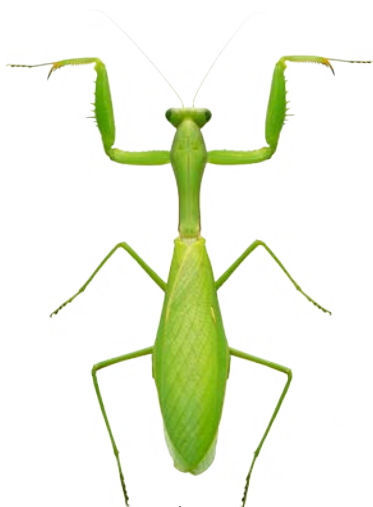


褐色型のハラビロカマキリは時々見つかる 兵庫県三田市 2009年9月

ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp.



メス

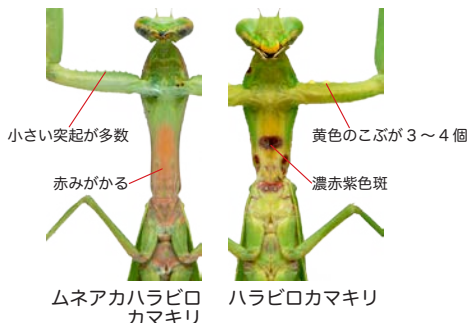


オス

●ハラビロカマキリとの見分け方

2000年代になって岐阜県などで見られるようになり、最近は関東、東海北陸、近畿地方でも相次いで発見されている。9月～11月に成虫。卵越冬で年1化。体長♂64-83mm、♀71-80mm。

※画像は全て山崎和久氏撮影・提供



●各種のオス交尾器



ヒメカマキリ



サツマヒメカマキリ



ヒナカマキリ



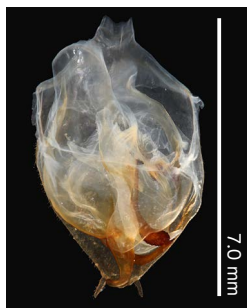
ウスバカマキリ



ココカマキリ



オオカマキリ



カマキリ



ハラビロカマキリ



●各種の卵鞘 (カッコ内は撮影に用いた卵鞘(長辺)のサイズ)



●ヒメカマキリ (12mm)  
産付場所：樹幹や枝、樹幹に形成された浅いウロなどの他にガードレールや柵、石灯籠のような人工物



●サツマヒメカマキリ (18mm)  
産付場所：ヒメカマキリと同様

コカマキリよりも厚みがある



●ウスバカマキリ (28mm)  
産付場所：石や枯れ木などの下

細い突起がある



●ヒナカマキリ (9mm)  
産付場所：地表に近い樹幹や石、倒木など



●コカマキリ (26mm)  
産付場所：樹の割れ目や石の隙間のような物陰

色が濃くつやがある

突起がある



●ハラビロカマキリ (26mm)  
産付場所：樹幹や建物の壁面など



稲荷寿司に似ている

●オオカマキリ (46mm)  
産付場所：ススキや樹の枝など



筋が2本

●カマキリ (43mm)  
産付場所：植物の茎や樹幹、枝

表面が白っぽい



●ムネアカハラビロカマキリ (30mm)  
産付場所：樹の枝  
(画像は山崎和久氏提供)

# 付録・南西諸島、小笠原のカマキリ



※交尾器を観察するため腹端が切断されています。

ナンヨウカマキリ *Orthodera ministralis*  
人家近くに生息。第二次大戦後、物資に混じて移入した可能性が高い。体長♂ 36mm、♀ 40mm。小笠原諸島の父島、兄島、弟島に分布。国外ではオーストラリアに分布。



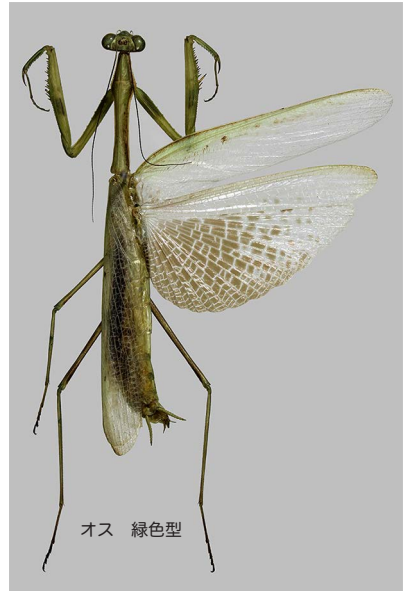
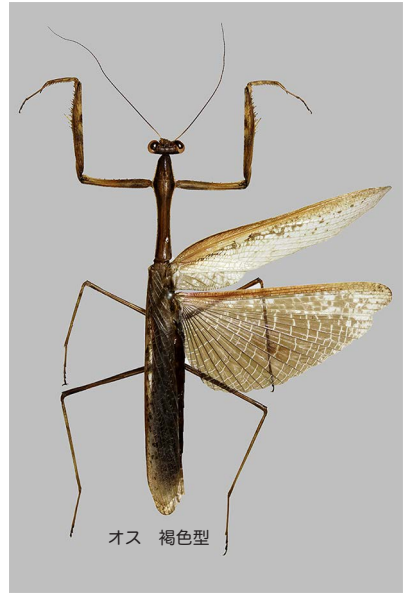
※交尾器を観察するため腹端が切断されています。

マエモンカマキリ *Tenodera fasciata*  
日本最大のカマキリ。4～12月に成虫。体長♂ 77-101mm、♀ 93-105mm。徳之島、沖縄島、宮古島、八重山列島；東南アジアに分布。



前脚脛節内側の斑紋

ヤサガタコカマキリ *Statilia apicalis*  
♀個体の採集記録は非常に少ない。体長♂ 36-40mm、♀未知。石垣島、西表島、与那国島；東南アジア、南アジア、オーストラリアに分布（アフリカ西部の分布については要調査）。



スジリコカマキリ *Statilia nemoralis*

4～11月に成虫。体長♂ 41-51mm、♀ 50-57mm。沖縄島、八重山列島；台湾、東南アジア、南アジア各地に広く分布。

付録 カマキリ目の科・亜科リスト (2017年7月現在※)

1. Family Chaeteessidae

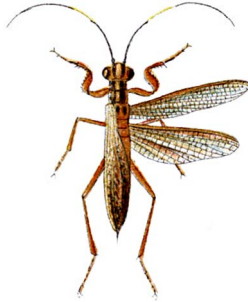
---

Subfamily Chaeteessinae

2. Family Mantoididae

---

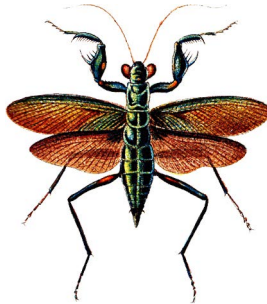
Subfamily Mantoidinae



*Mantoida nitida*

3. Family Metalliticidae

---



*Metalliticus splendidus*

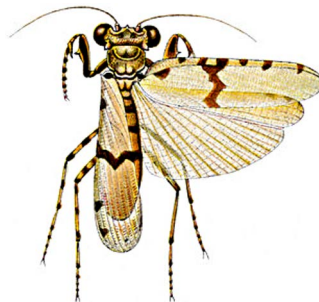
4. Family Amorphoscelidae

---

Subfamily Amorphoscelinae

Subfamily Paraoxyphilinae

Subfamily Perlamantinae



*Amorphoscelis putchella*

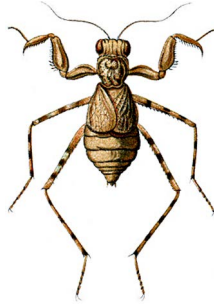


*Metoxyphilus costalis*

※現在カマキリ目の分類体系は大幅な再検討が進められており、今後大きく変わる可能性があります。

5. Family Eremiaphilidae

Subfamily Eremiaphilinae



*Eremiaphila cerisyi*

6. Family Acanthopidae

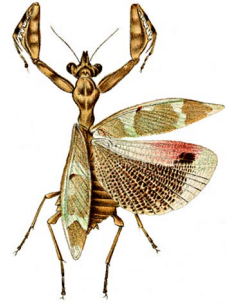
Subfamily Acanthopinae

Subfamily Acontistinae

Subfamily Stenophyllinae



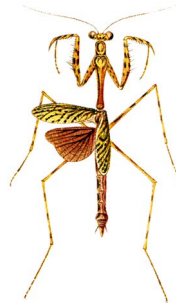
*Acanthops falcataria*



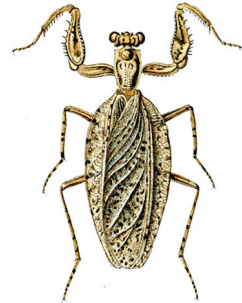
*Callibia diana*

7. Family Liturgusidae

Subfamily Liturgusinae



*Stenomantis novaeguineae*

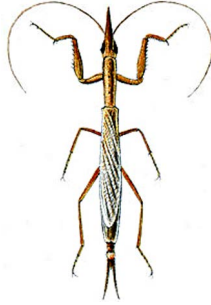


*Theopompa borneana*

8. Family Tarachodidae

Subfamily Caliridinae

Subfamily Tarachodinae



*Pygomantis pallida*



*Caliris masoni*

9. Family Thespidae

Subfamily Haaniinae

Subfamily Hoplocoryphinae

Subfamily Miopteryginae

Subfamily Oligonicinae

Subfamily Pseudomiopteryginae

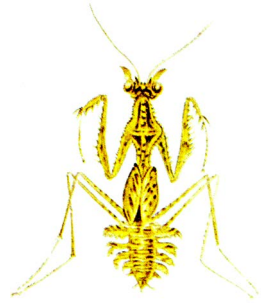
Subfamily Thespinae



*Pseudomiopteryx infuscata*



*Hoplocorypha macra*



*Haania javana*

10. Family Iridopterygidae

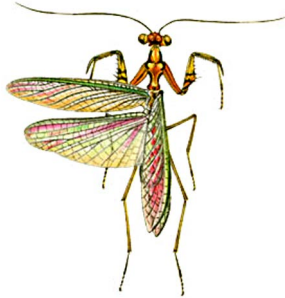
Subfamily Hapalomantinae

Subfamily Iridopteryginae

Subfamily Nanomantinae

Subfamily Nilomantinae

Subfamily Tropidomantinae



*Hapalopeza nitens*

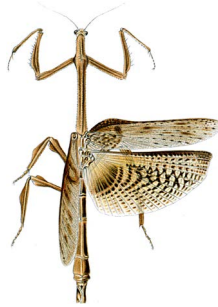


*Neomantis australis*



11. Family Toxoderidae

Subfamily Toxoderinae



*Aethalochroa ashmoliana*

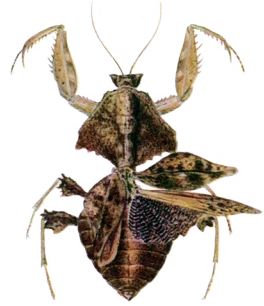


*Paratoxodera cornicollis*

12. Family Epaphroditidae

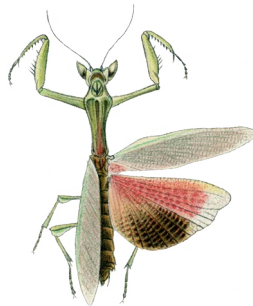


*Epaphrodita musarum*



*Brancsikia freyi*

13. Family Galinthiidae

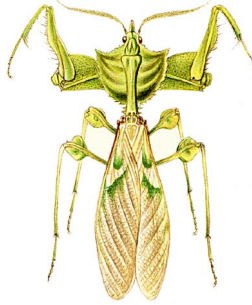


*Galinthias amoena*

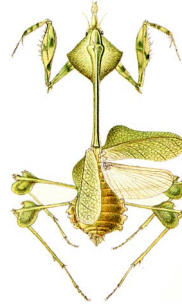
14. Family Empusidae

Subfamily Blepharodinae

Subfamily Empusinae



*Idolomantis diabolica*



*Gongylus gongyloides*

15. Family Hymenopodidae

Subfamily Acromantinae

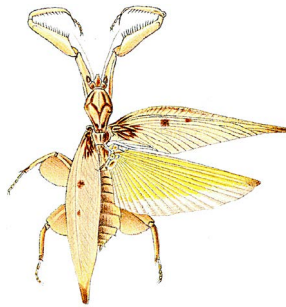
subfamily Hymenopodinae

subfamily Oxypilinae

subfamily Phyllocraniinae

subfamily Phyllothelyinae

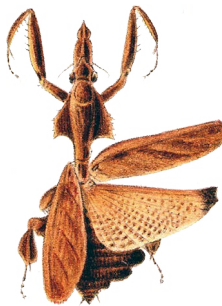
subfamily Sibyllinae



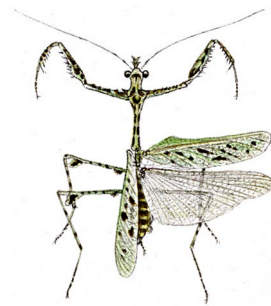
*Hymenopus coronatus*



*Pachymantis bicingulata*



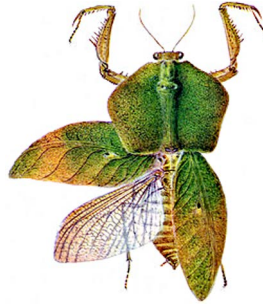
*Phyllocrania paradoxa*



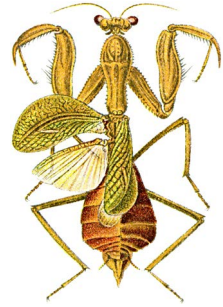
*Sibylla griffinii*

16. Family Mantidae

- subfamily Amelinae
- subfamily Angelinae
- subfamily Antemniinae
- subfamily Choeradodinae
- subfamily Chroicopterinae
- subfamily Comptosiainae
- subfamily Danuriinae
- subfamily Deroplatyinae
- subfamily Dystactinae
- subfamily Heterochaetinae
- subfamily Mantinae
- subfamily Mellierinae
- subfamily Miomantinae
- subfamily Orthoderinae
- subfamily Oxythestinae
- subfamily Photinae
- subfamily Schizocephalinae
- subfamily Stagmatopterinae
- subfamily Stagmomantinae
- subfamily Vatinae



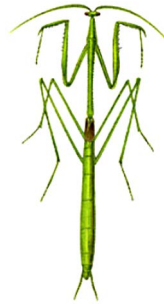
*Choeradodis rhomboidea*



*Cilnia humeralis*



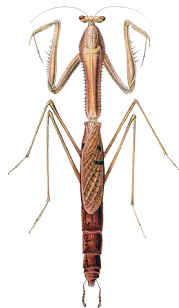
*Pseudempusa pinnapavonis*



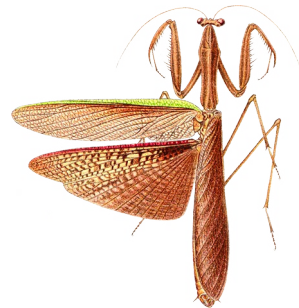
*Brunneria borealis*



*Zoolea lobipes*



*Archimantis monstrosa*



*Tenodera aridifolia*

## 文 献

- Beier, M. (1934) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Hymenopodinae. *Genera Insectorum*, 196: 1-37.
- Beier, M. (1934) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Sibyllinae and Empusinae. *Genera Insectorum*, 197: 1-10.
- Beier, M. (1934) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Toxoderinae. *Genera Insectorum*, 198: 1-10.
- Beier, M. (1935) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Thespiinae. *Genera Insectorum*, 200: 1-32.
- Beier, M. (1935) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Orthoderinae - Choeradodinae - Deroplatynae. *Genera Insectorum*, 201: 1-10.
- Beier, M. (1935) Mantodea. Fam. Mantidae. Subfam. Mantinae. *Genera Insectorum*, 203: 1-146.
- Giglio-Tos, E. (1913) Orthoptera. Fam. Mantidae. Subfam. Perlamantinae. *Genera Insectorum*, 144: 1-13.
- Giglio-Tos, E. (1921) Orthoptera. Fam. Mantidae. Subfam. Eremiaphilinae. *Genera Insectorum*, 177: 1-36.
- Misof, B. *et al.* (2014) Phylogenomics resolves the timing and pattern of insect evolution. *Science*, 346 (6210): 763-767.
- 中峰 空 (2016) カマキリ目 . 日本直翅類学会 (編), 日本産直翅類標準図鑑 198-205. 学研プラス, 東京.
- Otte, D., Sperman, L., & Stiewe, M. B. D. (2015) *Mantodea Species File Online*. Version 5.0/5.0. [2015/4/25]. (<http://Mantodea.SpeciesFile.org>)
- Rehn., J. A. G. (1911) Orthoptera. Fam. Mantidae. Subfam. Vatinae. *Genera Insectorum*, 119: 1-28.
- Svenson, G. J. & Whiting M. F. (2009) Reconstructing the origins of praying mantises (Dictyoptera, Mantodea): the roles of Gondwanan vicariance and morphological convergence. *Cladistics*, 25: 468-514.

## Web サイト

Project Mantodea: Systematics and Evolution (<http://mantodearesearch.com/>)

●採集・撮影・執筆・レイアウト

中峰 空

●執筆協力

市川顕彦 富永修 戸田直希

●採集協力

今給黎靖夫 刈田悟史 小坂祥悟 長島聖大

●写真提供

山崎和久

本州・四国・九州のカマキリ図鑑

2017年7月20日 Ver.2 発行

編著 中峰空

発行 NPO 法人 こどもとむしの会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学農学部昆虫分子機能科学研究室気付



